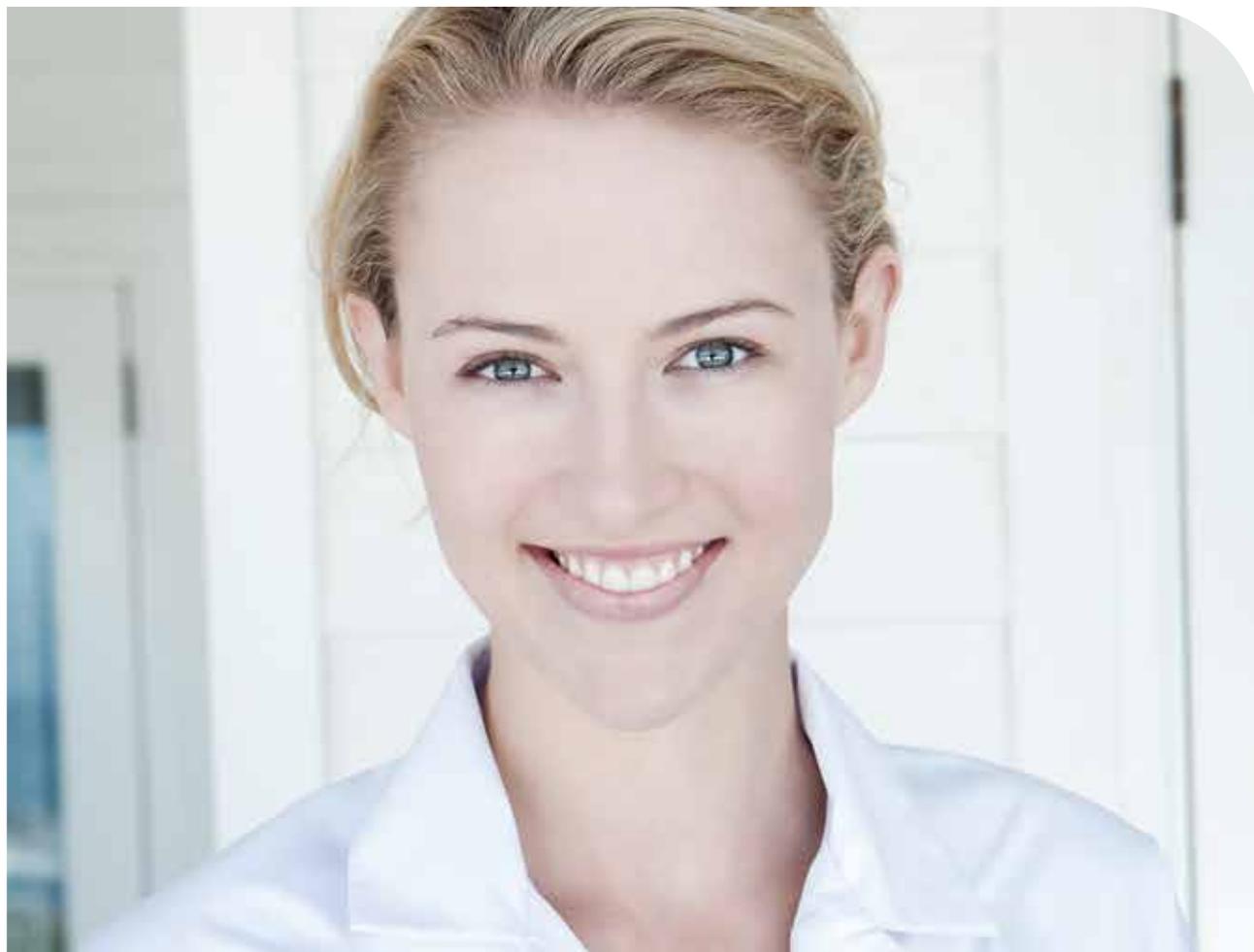


2019年 WDAI 第6回定例会

プログラムおよび講演抄録



WDAI

Women Dental Academy for Implantology

集い、学び、女性歯科臨床家たちをつなぐ。

日時●2019年1月27(日) 10:00~16:30

会場●ストローマン・ジャパン株式会社 東京セミナールーム

Supported by

 **straumann**

ご挨拶



WDAI会長 柳井 智恵 (日本歯科大学)

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。本年も皆様の益々のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

近年、マスクミ等で人工知能(AI)やロボット等によるオートメーションがよく聞かれるようになり、テクノロジーの進化は凄まじい潮流となって私たちの生活に関わっています。先進国の日本では、2030年頃には約50%が自動化されることが予想されています。歯科界においても、デジタル技術が加速的に発展しており、インプラント治療に必要な外科手技や補綴治療にも波及し大きな変化もたらしています。つまりデジタルソリューションを用いることでこれから迎えますデジタル新時代において、歯科治療はより快適で精密で負担の少ない治療に変化していくことと思われます。

今回の定例会では「デジタル新時代」をテーマに、特別講演としてデジタル最前線を牽引しております田中譲治先生に口腔内スキャナー(IOS)について多くの臨床経験をまじえてご教授頂きます。また、教育講演として吉野 綾先生に医学部の歯科口腔外科におけるインプラント治療の現状、山口千緒里様には歯科衛生士としてインプラントの長期安定使用に必要なコツをお話して頂きます。さらには会員によるデジタル関連の様々なご発表を予定しており、最新情報なども提供できる充実したプログラムを企画しています。

本会の実行委員長・小林真理子先生はWDAIの広報をも担当しており、ホームページなど多くのIT関係のお仕事を見事に成し遂げています。今回もその類を見ない素晴らしい才能を発揮して頂けますことと今からとても楽しみにしております。ぜひ多くの会員のご参加を心よりお待ちしております。

おわりに、平成最後の定例会を基に、WDAIはこれからは会員にとってデジタル新時代の道標になりますようイベントや情報を提供していきたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



実行委員長 小林 真理子 (汐田総合病院 歯科・口腔外科)

昨今のインターネットやスマートフォンをはじめとするIoT技術の進歩は、私たちの生活に大きな利便性をもたらしました。総務省H30年度情報通信白書によると、次はデジタルヘルスケア、医療でのIoT活用が今後の発展分野として挙げられています。歯科医療も例外ではなく、すでにCAD/CAM技術が保険導入されているのはご存知の通りです。そしてスキャンテクノロジー、プログラミングや仮想現実といった技術は、ついに“歯科医療の包括的デジタル化”を実現させました。昨年のITI コンセンサス会議では、初めて“デジタルテクノロジー”項目が登場。そして課題有りとした上で、臨床精度は従来法と変わらないと評価したのです(WDAI Academy News Vol.3でも一部紹介)。臨床も研究も国際的なトレンドとなっており、導入の有無に関わらず加速的に進化するデジタル歯学から目を離せません。

そして今回私たちは、“デジタル新時代”へ踏み出します。デジタル歯学のエキスパートとして、我が国で最も多く口腔内スキャナー(3Shape社製、Trios3)の臨床症例を持つ、田中譲治先生をメインスピーカーにお迎え致します。また会員からは活発なデジタルデバイスの応用を、田内友貴先生、茂木幸子先生、そしてCAD/CAMの義歯への応用を徳江 藍先生にお話いただきます。更にデジタルに留まらず、教育講演では口腔外科の基本から超高齢社会でのインプラントケアまで、広くカバーする内容が揃いました。WDAI理事・吉野 綾先生、そしてWDAIメンバー・山口千緒里様よりお話を頂きます。今日1日が皆様にとって実り多きものとなります様、願っております。

最後に、WDAI発足から三周年を迎える年初めに、この様な大会に携わる機会を頂戴し、リードチーム、関係各所に御礼申し上げます。そして今後のWDAIが、皆様の英知を築き明日の臨床を支えるアカデミーへ発展していくことを、心より祈念致します。

2019年 WDAI 第6回定例会 プログラム

10:00 - 10:05	<p>オープニングリマーク WDAI 会長 柳井 智恵 5 min.</p> <p>座長: WDAI 理事 三好 理恵子</p>
10:05 - 10:35	<p>会員発表 インプラント治療にデジタル活用を～歯科衛生士が必要とされる知識～ 田内 友貴 歯科衛生士 30 min.</p>
10:35 - 10:55	<p>会員発表 デジタル歯科技工と女性の働き方 茂木 幸子 歯科技工士 20 min.</p>
10:55 - 11:25	<p>会員発表 CAD/CAM 技術を応用した有床義歯の製作 徳江 藍 歯科医師 30 min.</p>
11:25 - 11:40	<p>休憩 (15 min.)</p> <p>座長: WDAI 副会長 立川 敬子</p>
11:40 - 12:40	<p>教育講演 あらためておさえておきたい“口腔外科の基本”と 医学部歯科口腔外科におけるインプラント治療について 吉野 綾 歯科医師 60 min.</p>
12:40 - 13:40	<p>昼食 [お弁当(無料)を用意しています] 60 min.</p> <p>座長: WDAI 副会長 田中 道子</p>
13:40 - 15:10	<p>特別講演 口腔内スキャナー (IOS) 時代の到来 田中 譲治 歯科医師 90 min.</p>
15:10 - 15:25	<p>休憩 (15 min.)</p> <p>座長: WDAI 副会長 渥美 美穂子</p>
15:25 - 16:10	<p>教育講演 インプラント療法適応患者の長期安定使用に必要なこと (歯科衛生士の視点から) 山口 千緒里 歯科衛生士 45 min.</p>
16:10 - 16:20	<p>全体質疑応答 10 min.</p>
16:20 - 16:25	<p>次回定例会案内: WDAI 理事 山口 絵美 5 min.</p>
16:25 - 16:30	<p>クロージング 5 min. WDAI 副会長 田中 道子</p>
17:00 - 19:00	<p>懇親会 百代茶屋/田町グランパークB1F 120 min. (10ページのご案内を参照ください)</p>

会員発表 10:05-10:35

インプラント治療にデジタル活用を～歯科衛生士が必要とされる知識～ Digital basic application in clinical Implant dentistry ～For Dental Hygienist～



銀座UCデンタルインプラントセンター／歯科衛生士（東京都） 田内 友貴

昨今急速なデジタル進化を遂げると共に、少子化による人材不足への対応が逼迫している。歯科においても歯科衛生士の離職、歯科技工学校の閉鎖に伴う歯科技工士の激減など国家資格を有したコメディカル不足が深刻な問題となっていることは言うまでもない。デジタルを活用することは人員不足をも補うことが可能であり重要な情報を収集する有効なツールでもある。

デジタルデバイスについては、多くの学びの場でその活用方法は紹介されてきた。CBCT、光学印象、データ交換、会計アポイントシステムなど情報は溢れ簡便化しているものの、そのデバイスを使用するのは『人』である。それ故、実際にアナログである『人』が実際にどう応用するか具体的に考察することが必須とされる。しかしながらコンピューターツールに強い『人』ばかりではない。多くの情報やツールも使用できて初めて効果を発揮する。演者はチーフとして七年以上、最先端な治療とメンテナンスに早くからデジタルを応用してきた。歯科衛生士が携わるインプラントメンテナンスには特にCBCTの活用は大きなKeyとなることは経験を持って確信している。

歯科治療が終了してから患者の予後を担って行くのは歯科衛生士が中心であると言っても過言ではない。歯科衛生士がやりがいを持ってメンテナンスに臨むことは、歯科医師、歯科衛生士のみならず患者にもクリニックにも大きな利益をもたらすだろう。本講演ではCBCTにFOCUSし実際のメンテナンスにCBCTを歯科衛生士としてどのように活用しているのか、歯科衛生士として三次元の膨大な情報を処理できるヒントを、歯科衛生士のみならず歯科医師やコメディカルとく進化し続ける歯科衛生士のメンテナンスの実際を、皆様と症例を交えて供覧し考えたい。

2001年 神戸松蔭女子学院大学文学部国文学科日本語教育コース卒業
2008年 兵庫県歯科医師会立兵庫歯科学院専門学校 歯科衛生士学科卒業
医療法人 TDC タバタデンタルクリニック勤務
2010年 ルネス青山デンタルクリニック勤務
2011年 銀座UCデンタルインプラントセンター 勤務
2018年 CortezSDy株式会社 代表取締役社長 フリーランス歯科衛生士
兵庫県歯科医師会附属兵庫歯科学院 非常勤講師

公益社団法人 日本口腔インプラント学会会員
東京 SJCD 会員

会員発表 10:35-10:55

デジタル歯科技工と女性の働き方

My experience as a woman in a digital dental lab



株式会社デンタルアクト／歯科技工士（神奈川県） 茂木 幸子

若手の歯科技工士不足と高齢化が叫ばれて久しいが、近年歯科技工士の専門学校での女性比率に於いては増加の一途である。

ここ数年で歯科技工業界は一変した。それまでの3K（汚い・きつい・危険）の筆頭のような職種から変貌を遂げてきている。斯く言う私も入社当初からの約十年間は、新人メニュー、メタル系（コア・インレー・クラウン）をこなし、帰る頃には研磨材を浴び手指はおろか顔も首も真っ黒、終電も無くなるのでろくに洗う間もなく急ぎ職場を後にする毎日であった。

二年間の専門学校では入学年度に知識も無いまま有床と歯冠修復のどちらかを専攻するが、きれいな歯を作る＝前歯、との単純な発想とイメージから私は何の気なしに歯冠修復を選択した。当然、勤めてからの仕事内容も歯冠修復であったが、いざ就職をし、上手になりたいという想いはあるものの、指導を受けながら取り組み始めたところでもるで形にならず、毎日時間だけが流れ、数はこなせない、良いものも作れない、焦燥する日々が続いた。今も昔も新入社員を雇うということは数年間に亘り会社は経営的に大赤字である。

入社三年が過ぎたころ、上司のアドバイスにより臨床模型上で自分好みの天然歯形態があった際にシリコンで印象を採り、石膏を流したものを機の引き出し内に並べワックスアップの参考にするようにした。結果、少しずつ実を結び、充実感を覚えるようになった。

それから20年以上経った今もまだまだレベルは上げねばならないが、現在ではインストゥルメントがマウスに置き換わった。しかし、マウスになったところでアナログ技術の習得なくして得られるものはなく、また良い技工物も作れない、そこは何ら変わらない。

弊社では、十年前にCAD/CAMシステムを導入してから今現在まで、毎年のように設備は増え続け今ではまるで職種が変わったかのように環境は変化し、またその潮流は女性にこそ向いている職業に向かっていると見える。今後は法律的問題の緩和により、テレワーク等の働き方の普及が進むとすれば、若手女性歯科技工士の増加も重なり更に魅力的な職種として生まれ変わるの容易に予測できる。

「歯科衛生士」という職業も離職率が高いと聞く。当然、歯科技工との仕事内容の大きな違いはあっても、永く勤めることによる医院経営の安定と貢献に寄与する部分に於いては相通じるものがあるのではないかと感じる。

今回は、入社から20年間の私の働き方を中心に、離職率の高い歯科技工士という職業をなぜ自分はこちらまで続けられたのか、会社、仲間、結婚、産休・育休、保育園問題、復帰、来春小学生鍵っ子にはしたくない問題等々、私の経験からお話をさせていただく。

1998年03月 東邦歯科医療専門学校 歯科技工科卒業
 1998年04月 株式会社デンタルアクト入社
 2008年01月 CAD/CAMシステム導入によりデジタル技工に携る
 2012年10月 産休・育休に入る
 2014年07月 業務に復帰 現在に至る

会員発表 10:55-11:25

CAD/CAM技術を応用した有床義歯の製作 Removable denture construction using CAD/CAM

鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座／歯科医師（神奈川県） 徳江 藍



I 目的:

有床義歯分野へのCAD/CAM導入は、固定性補綴に比較してスタートはかなり遅れていた。しかし現在、コンプリートデンチャーにおけるCAD/CAM製作もコマースベースで行なわれており、インプラントデンチャー(IOD)においてもアタッチメントやフレームワークがミリング加工されている。

今回、CAD/CAM技術を応用しコンプリートデンチャーとIODを製作したので報告する。

II 症例の概要:

症例① 82歳,女性. 咀嚼困難を主訴に来院した。Nexteeth (Whole You. Inc., USA) の上下顎無歯顎用プラスチック既製トレー (DENTCA Tray) とシリコン印象材を用いて、2回法により印象採得,ゴシックアーチ,咬合採得を行った。

印象体をスキャンした後、3Dプリントによりピエゾグラフィックトレーを製作し、通法どおりデンチャースペースを採得した。

採得したデンチャースペースをCADにより人工歯排列した下顎義歯データとコンピュータ上で重ね合わせ、デンチャースペース内に再排列した。その後、CAMにより3Dプリントされたトライインデンチャーを製作し、口腔内で試適後、顎位や咬合接触関係、人工歯の排列位置を確認し、チェックバイトを採得した。

再度、CAD上で咬合のデータを修正した後、ミリングマシンにデータを転送してレジブロックから義歯床を削り出した。ミリングした義歯床に既製の人工歯を接着させ、コンプリートデンチャーを完成させた。

症例② 69歳,男性. 上顎無歯顎,主訴は咀嚼困難および上顎義歯による嘔吐反射を主訴に来院した。インプラント(Nobel Tapered CC, Nobel Biocare) を右上135 左上235相当部に6本埋入した。通法通り印象採得,咬合採得を行い、排列試適後、模型とロウ義歯をスキャンし、ロケータアタッチメント付きミリングバーを製作した。ミリングバーが付与された模型とロウ義歯をスキャンし、IODのフレームワークをCAD上で設計し、その形状データをもとにチタンブロックからミリング加工(GM1000,GC)し、金属構造義歯を完成させた。

III 結果と考察:

CAD/CAMによる切削加工したコンプリートデンチャーとIODは、粘膜面や支台装置の適合も良好であり、インプラントへの負担過重や義歯の変形、破損も認められず、良好な維持、安定が得られ、主訴の改善と患者の高い満足が得られた。

2009年	鶴見大学歯学部卒業
2009-13年	鶴見大学大学院 歯学研究科 有床義歯補綴学専攻
2013年	鶴見大学歯学部 有床義歯補綴学講座 学部助手
2015年	鶴見大学歯学部 有床義歯補綴学講座 助教
2018年	鶴見大学歯学部 有床義歯補綴学講座 非常勤講師

公益社団法人 日本補綴歯科学会会員
公益社団法人 日本口腔インプラント学会会員

教育講演 11:40-12:40

あらためておさえておきたい“口腔外科の基本”と 医学部歯科口腔外科におけるインプラント治療について Basic precautions for dental implant treatment Case presentation



福岡大学医学部歯科口腔外科学講座／歯科医師（福岡県） 吉野 綾

デンタルインプラント治療は、健康を支える治療として社会に浸透し、一般的に行われるようになってきました。

インプラント治療は、抜歯、骨造成、フィクスチャーの埋入、歯肉形成など、さまざまな外科処置を要する治療です。患者さんの全身や局所の状態に合わせて、これらの外科処置を適切に選択し行うことが、インプラント治療を成功に導くといえます。インプラント治療を必要とする患者さんにはさまざまな背景がありますが、概して高齢の方が多く、全身疾患をとともう頻度も高い傾向があります。術前に、治療に際しての問題点を確実に抽出し、それぞれの対策を講じ、リスクを想定して臨むことが重要です。今回は、問診時に注意して聴取しておくべき、既往歴、薬歴、そこから想定される全身のおよび周術期のリスク、対策などについて整理します。また外科処置時に注意しなければならない止血の機構について、近年多様化してきている抗血栓薬の種類にも着目して復習したいと思います。加えて、局所的要因として、下顎へのインプラント埋入時のオトガイ動脈損傷症例を挙げ、解剖学的リスク、動脈損傷時に起こりうる事象とその対応方法を供覧します。

一般にデンタルインプラント治療が普及するなか、その適応は拡大してきました。腫瘍や外傷などで喪失した歯・歯槽骨・顎骨を補填する顎顔面補綴においても、それまで先進医療もしくは自費診療で治療を行ってきたインプラント義歯での咬合再建が、平成24年度から保険診療で行われるようになってきました。使用できる材料に制限があるメーカーが多い中、Straumann®インプラントはフィクスチャー、補綴物の固定式・着脱式に関係なくすべての部品が保険診療で選択可能であるため、いわゆる保険インプラント治療においても広く使用されています。今回は、これまでに経験した、医学部歯科口腔外科ならではの広範囲顎骨支持型装置による咬合再建症例を供覧し、インプラントの有用性について報告したいと思います。

2007年 新潟大学歯学部歯学科卒業
2014年 島根大学大学院医学系研究科医科学専攻博士課程終了 博士（医学）
2014～18年 島根大学医学部歯科口腔外科学講座 助教
2018年～ 福岡大学医学部歯科口腔外科学講座 講師

公益社団法人 日本口腔外科学会 認定医
インフェクションコントロールドクター
WDAI理事

特別講演 13:40-15:10

口腔内スキャナー (IOS) 時代の到来 Arrival of the era of intraoral scanners in dentistry

一般社団法人 日本インプラント臨床研究会 (CISJ) 会長・施設長 (千葉県開業) 田中 譲治



一般産業界のハイテクが歯科医療に応用され、特にCAD/CAMの進歩は目覚ましく、これまで避けることが出来なかった鑄造歪等が解消され「適合をねらうなら鑄造でなくCAD/CAM」という歯科補綴のパラダイムシフトを引き起こし、優れた適合が容易に製作できるようになった。まさにデジタルデンティストリーの時代と言える。しかし、このように補綴製作においては完成度が高いにもかかわらず、いまだに印象採得から模型製作においてはほとんどがアナログに頼っているのが現状と言え、印象歪、石膏硬化歪などの対応を強いられている。

このような中、口腔内スキャナー (IOS) が進化を遂げルーティーンになりつつある。演者は既にインプラント補綴、自費修復のほぼ全てをIOSにより製作しており、加えてIOSを利用することで、さまざまな臨床応用を可能にしているのでその実際と活用法を解説する。

口腔内スキャナーの日常臨床に直結する利点としては

- ・不快感、嘔吐反射の対応/トレーが必要なく印象材も不要/石膏注入作業が不要/アンダーカットへの心配が不要/印象不良部の再スキャンが可などが挙げられる。

さらに、下記のようなさまざまな臨床応用や利点が得られる。

印象歪、石膏硬化歪を解消/噛みしめた状態を再現できるため咬合調整がわずかで済む/印象材、石膏、トレーなどの材料コスト削減/患者への説明に非常に有用/ネット利用で輸送時間短縮、遠方でも可/データを3D上で自由に加工でき、CTとの重ね合わせも容易/要介護への応用など。

そして、少数歯のみならずフルアーチへの応用をはじめ、CTとの重ね合わせによるガイド製作やプロビジョナルレストレーションの最終補綴へのトランスファーなども可能となり、加えて、3Dプリンターによる義歯製作やコピーデンチャーについても紹介する。このように口腔内スキャナーによりさまざまな可能性が広がり、まさに口腔内スキャナーの時代の到来といえよう。

1986年 日本大学松戸歯学部卒業
1989年 千葉県柏市にて田中歯科医院開業
1995年 MACS研究会設立 現在主宰を務める
2001年 日本大学松戸歯学部 解剖学Ⅱ講座にて学位取得
2008年 日本大学松戸歯学部 臨床教授 現在に至る
2014年 一般社団法人 日本インプラント臨床研究会 会長・施設長 現在に至る

公益社団法人 日本口腔インプラント学会 理事・専門医・指導医
ITIフェロー・SC関東2支部長・千葉北SC Director

教育講演 15:25-16:10

インプラント療法適応患者の長期安定使用に必要なこと (歯科衛生士の視点から)

What is necessary for long-term stability of dental implants in patients from the viewpoint of dental hygienist



ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター/歯科衛生士(東京都) 山口 千緒里

I 目的:

長期症例を通して,上部構造の適合性および形態が患者に与える影響(セルフケアの難易度や,インプラント周囲組織への影響)について供覧してみたい。

また,CAD/CAM技術を応用してインプラントの上部構造作製を行った場合,印象採得およびインテックス採得時の注意点や,納品されたフレーム・ワークの適合精度を模型と口腔内で確認することにより,適合精度の良い上部構造を患者へ提供する重要性を再考する。

II 症例の概要とⅢ経過:

症例① 90代男性,1992年初診時,上下無歯顎(総義歯使用)。患者の希望により,その後上下インプラント埋入を行い上部構造を装着。現在下顎26年,上顎25年経過。ご家族お付き添いのもと定期検診に来院中。症例② 90代女性,1992年初診,上顎前歯部2本埋入し上部構造を装着。現在は通院困難となり入所先施設に出向き訪問口腔ケアを実施中。症例③ 80代男性,2002年初診,上下前歯および臼歯部にインプラント埋入し上部構造を装着,その後,通院困難となり訪問口腔ケア実施。症例④ 60代女性,2009年初診,他院にて上顎無歯顎に対して即時埋入即時加重インプラントを行ったが,上部構造が清掃困難な形態であったため,インプラント周囲粘膜の炎症を訴えて来院。プロビジョナルの形態修正および上部構造新製を行い,症状は消失。現在は,定期的なメンテナンスを実施中。症例⑤ 60代男性,上顎無歯顎に対して他院(外国)にてインプラント埋入され,上部構造を装着,その後6年経過し日本に帰国。定期検診およびメンテナンスを引き継ぐも,インプラント周囲骨吸収や,上部構造フレームワーク破断が生じ,上部構造を新製する。現在は定期的なメンテナンスを実施中。

IV 考察および結論:

CAD/CAMを応用した場合であっても,印象採得やインデックス採得が今のところ従来と変わらないアナログでの工程が必要となる。よって,印象材や固定用レジン,石膏の収縮膨張による変形が生じることを考慮し,細心の注意と各ステップでの徹底した確認作業を行うことが重要である。また,超高齢社会の我が国におけるセルフケアという視点から,患者の経年的変化にも対応可能な構造を付与した上部構造の作製が望ましいと考える。

1988年 横浜歯科技術専門学校 歯科衛生士科卒業

1992年ー ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター勤務

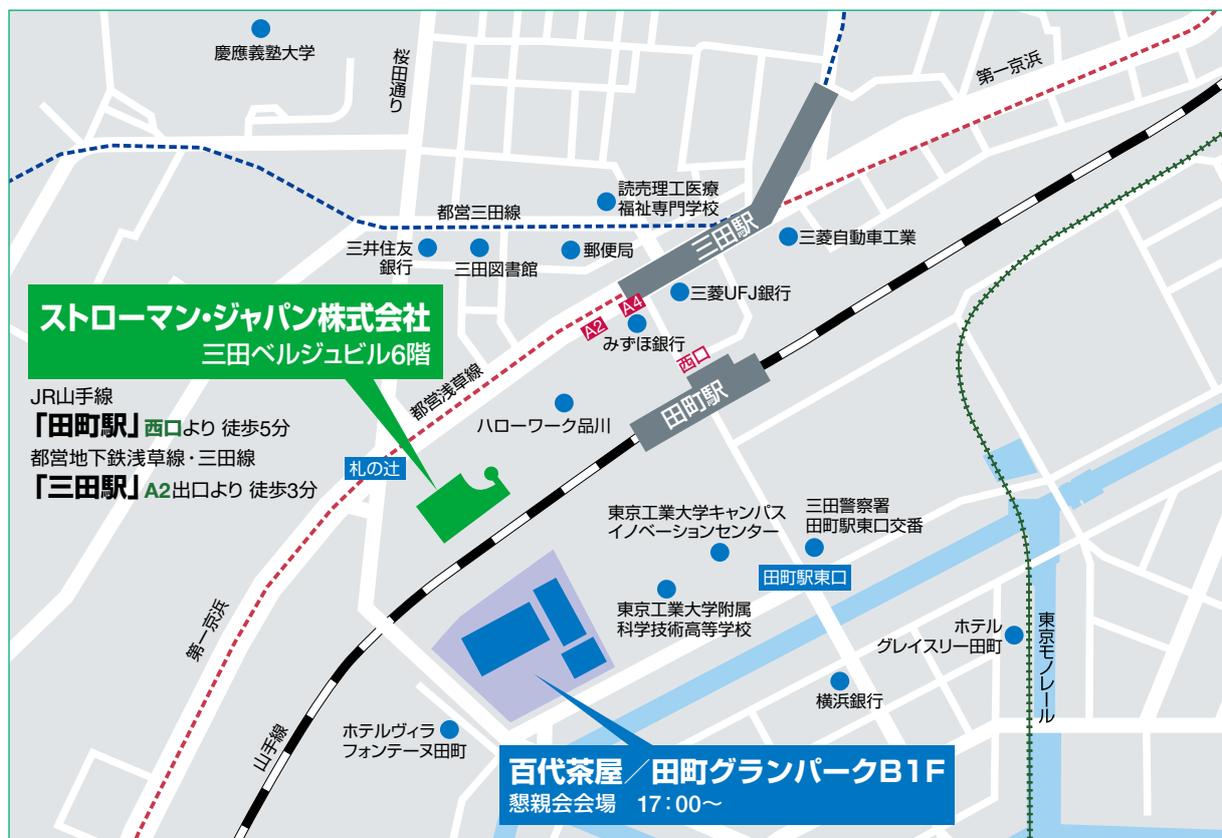
公益社団法人 日本口腔インプラント学会 認定インプラント学会認定インプラント専門歯科衛生士 2018年取得

一般社団法人 日本医療機器学会会員

公益社団法人 日本口腔インプラント学会会員

2019年 WDAI 第6回定例会 懇親会

日時 2019年1月27日(日) 17:00~19:00
 会場 田町グランパークB1F 百代茶屋
 東京都港区 芝浦3-4-1 Tel. 03-5441-2118
 参加費 会員 ¥ 1,000 非会員 ¥ 2,000 (当日受付にてお支払いください・当日入会申込した方は会員扱い1,000円)
 アクセス <http://www.granpark.jp/shop/hyakudaichaya/>





Women Dental Academy for Implantology (略称:WDAI)
女性歯科インプラントアカデミー

〈WDAI事務局〉

info@wdai.jp

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-21-10 セブンビル7階

株式会社インターベント内

TEL : 03-3527-3890 FAX : 03-3527-3889

www.WDAI.jp